

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690900226		
法人名	医療法人社団 育生会		
事業所名	グループホーム ふかくさ(1階)		
所在地	京都府京都市伏見区深草西浦町8丁目19番地		
自己評価作成日	平成28年6月10日	評価結果市町村受理日	平成28年9月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成28年7月29日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念である「和」を原点とし、和やかな雰囲気のもと地域から信頼される施設作りを開設以来、取り組んでいます。運営母体が医療法人である為、医療との連携が確立されています。地域との交流も活発で定期的に町内の方々が施設に来られ大正琴、舞踊、手品等の披露、児童館の小学生によるダンス発表会等、地域との交流の場となっています。家族様が定期的に音楽療法のボランティアとして活動して下さったり、職員の大学生の御子様がサークル仲間と楽器演奏に来られたりと、気軽に施設に来て頂いています。玄関先には、ご利用者様と一緒に季節の花等のガーデニングを楽しみながら取り組んでいます。今後も地域に開かれた施設作り、ご利用者様にとって安心、安全な居心地良い生活の場として、笑顔あふれる穏やかな施設作りを、目指して行きたいと考えています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは家庭にいるような環境の中で利用者一人ひとりのペースや習慣に合わせて暮らせるよう個別性を大切にされた支援に取り組んでいます。地域との関わりも深く女性会や民生委員によるお茶会や傾聴などのボランティアの来訪も多く、児童館の子供たちとの交流や中学生、大学生の実習などの受け入れがあります。恒例となりつつある事業所の夏祭りやクリスマスなどの行事には多くの町内の方の参加を得て共に楽しむなど、利用者が地域の方と交流できる機会を多く作り、楽しみのある暮らしに繋がっています。また職員は利用者本位の支援に向けて積極的に意見や提案を出し、法人理念の「和」を原点に連携を図り、笑顔を意識しながら日々のケアに取り組むことで利用者にも笑顔が増え、その人らしく穏やかで落ち着きのある暮らしに繋がるよう支援に取り組んでいます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念をもとに事業所独自の理念と業務目標を作り、全職員が実践出来る様に名札裏に携帯し、常に共有出来るよう意識している。	法人理念の「和」を基本にホーム独自の基本方針や具体的な業務目標を決め、理念や方針、目標は職員の名札の裏面や各フロアに掲示し、朝礼時に唱和し意識づけをしています。カンファレンスでは方針や目標を意識しながら支援を考え実践に繋げています。業務目標については職員の思いや意見をまとめ見直しを検討しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域行事には積極的に参加し、また、施設行事には、お声掛けし交流を大切にしている。地域の介護予防交流会には職員が参加し地域との繋がりを意識している。	回覧板や近隣の女性会の方から情報をもらい夜の地蔵盆や地域の祭り等に出かけたり、ホームの夏祭りやクリスマスには地域の方を招いて共に楽しんでいます。また児童館の子ども達との定期的な交流の他、民生委員や女性会によるマジックや大正琴、傾聴等のボランティアの来訪も多くあり、近隣大学の実習生や中学生の体験学習等も受け入れ多くの方と交流の機会を持っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域女性会主催の市民スクールでは職員が講師となり「認知症安心サポーター講座」を開催し地域の方にオレンジリングをお配りしたり、サービスのご紹介もさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、会議の開催をし、地域包括職員、ご家族様、地域代表の方に、参加して頂き、感想、助言を頂きサービスの向上の取り組みに繋げている。	会議は家族代表や地域包括支援センター職員、時には近隣住民などの参加を得て開催し、ホームの運営や取り組み状況、利用者の様子などはスライドショーを見てもらい報告し、意見交換をしています。参加者から地域の丁目毎の取り組み状況を聞いたり、意見や質問を受けて、地域包括支援センターについて説明したり、防災の研修会の実施など意見を反映した取り組みに繋がっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括主催の地域連絡会には支所の担当者も参加されており情報交換の場となっている。運営推進会議議事録提出時には、施設状況も伝え広報紙をお渡しし施設アピールが出来ている。	運営推進会議の議事録は広報誌と共に役所に持参し担当者と顔を合わせて手渡し、情報を聞くなど会話をするよう努めています。また分からない事があれば気軽に電話で問い合わせたり、会議や研修案内が届いた際は可能な限り参加するようにしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を繰り返し全職員が理解出来るよう取り組んでいる。安全管理上、玄関施錠はしているが、利用者様の行動制限防止することなく職員は可能な限り見守り付き添っている。	身体拘束に関する研修を全職員が受講して報告書を提出し内容によっては再研修を受けてもらう等全職員に周知を図っています。利用者の理解が得られる言葉かけについても具体的に説明し言葉による拘束が起らないよう留意すると共に互いに注意できる関係を築いています。出かけた利用者にはできるだけ付き添って出かけるようにしています。	

グループホーム ふかくさ(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が正しい認識が持てるよう研修を行い理解し、フロア会議ではケア内容の見直しをし意見交換している。また、職員のストレス等の理解をする為、常にコミュニケーションを取り防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在3名の利用者様が後見人制度を利用されており、今後も必要な方へは、支援体制がとれるよう外部研修等があれば参加し活用出来るよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間を取り説明し納得頂き契約し、入所後もご家族とは、常に連絡を取り合い信頼関係が築けるよう日頃から努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が面会に来られた時には、ご意見やご要望を伺い、玄関先には、ご意見箱を設置し、いつでも記入して頂けるような体制を取っている。	家族の面会時には利用者の様子を伝える中で意見や要望がないかを聞いたり、年に1度アンケート調査を実施しています。感謝の言葉が多く運営に関する意見は出にくい状況ですが、過去に職員の声掛けや対応について意見が出された際はフロアミーティングで話し合い日頃の対応を振り返り改善に繋げています。また個別の要望についてはその都度対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットのミーティングで意見交換を行い常勤会議にて情報共有し管理者は月1回の法人会議にて報告、相談し運営に反映している。	職員は会議やミーティング、日常の業務の中で積極的に意見や提案を出しています。職員が考えた感染症の対策やケアに関する多くの意見を取り入れ実践に繋げることで利用者の身体状況の改善などに繋がっています。また年に2回個人面談の機会や職員の様子を見ながら随時声をかけ相談に乗ったり話を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の知識、技能の向上が、ご利用者様の暮らしの質向上に結び付くという観点を持ち職員は年2回の自己評価シートを活用し目標を明らかにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修担当の職員が毎月プログラムを組み全職員が参加出来る体制が確立されている。また、個々の職員とも面談を定期的に行い相談、助言を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業所交流会にて意見交換する機会があり、お互いの施設見学の場にもなっておりサービスの質向上に繋がっている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご相談、お申込みの段階で、ご本人、ご家族が困っている事、不安なお気持ちを慎重に時間をかけ納得して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安な事等、慎重に伺いながら安心して頂けるよう信頼関係が築けるよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何に困って何を必要とおられるのかを見極め当施設で出来る事をお伝えし、地域資源を含め適切なサービスの提供が出来るよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様は、人生の先輩である事を忘れず常に尊厳の念を持ち接しており、生活を共に過ごす事により支え合い教えて頂きながら過ごす事が出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には常に施設での生活のご様子等をお伝えし、行事にも参加して頂けるようご案内しており、面会時には、ご要望を伺いやすい環境作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が訪ねて来られても、居室でゆっくりとお茶を飲んだり、お話が出来るよう過ごしやすい雰囲気作りをし、以前から通っていた美容院に職員と通うなど関係が継続出来るよう支援している。	近所の人や元同僚、教え子等の来訪の際はゆっくりできるよう配慮をしています。職員が付き添い自宅や懐かしい場所へのドライブ、馴染みのスーパーや神社等に出かけています。また墓参りや法事等へ家族と出かける際は準備や介護タクシーの手配等を支援したり、昔行っていたホテルの食事に付き添ったことが定期的な家族との外食の機会に繋がる等、家族の協力も得ながら支援をしています。また手紙や年賀状のやり取り等の支援もしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の相性等も見極め座席の工夫を考えたりコミュニケーションが取りやすくなるよう職員が間に入ったりと配慮し見守り支え合うよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院となったご利用者様も法人内のMSW、ご家族と連絡を取り合い退院後の受け入れ先施設の確保、他サービス調整等もを行っている。家族様からもご相談の連絡もあり、今までの関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の日々の関わりの中で、表情や想いを受け止めセンター方式の書き換え、カンファレンス開催し職員間で共有できるよう努めている。	入居時は利用者や家族から生活歴や趣味、暮らし方の希望を聞いたり、利用者の暮らしの経過などを家族にも書いてもらい意向の把握に繋がっています。日々の関わりの中では利用者の様子から思いを汲み取ったり、思いに繋がる新たな情報はアセスメントや個人記録に随時追記し、ミーティングや担当者会議などで思いが把握できるよう検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様、ご家族様から今までの生活歴等の情報をお聞きし、現在の状況も把握出来るよう常に情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の日々の暮らしの中で、心身状態の変化の把握をし個別ケアの提供に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の日々の心身状況を記録、モニタリングしケア会議にて見直し、ご家族様が面会時には、ご意見、ご要望をお伺いしサービスに反映出来る様計画書を作成している。	アセスメントの基、利用者や家族の意向に沿った介護計画を作成し、毎月担当職員が他の職員の意見や個人記録などを基にモニタリングを行い、変化のない場合は6か月毎に見直しています。見直しに向けてはケアプラン担当者会議を開き事前に確認した家族や往診時の意見などを反映させ、時には利用者の参加を得て共に必要な支援を考えています。計画を意識して日々記録ができるよう介護計画が記載された様式に変更しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の日々のご様子は、個別ファイル、ケア記録等を活用しながら職員間で情報共有をしている。		

グループホーム ふかくさ(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様、ご家族様の状況、ニーズの変化に応じて同法人施設と連携しながら、地域資源も含め柔軟なサービスに対応出来るように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域女性会ボランティアの方、近隣大学、専門学校学生の受け入れも、交流を深めており、地域資源を活用しながら町内の理髪店、美容院、花屋、コンビニ店では、顔なじみの関係となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に以前からの、かかりつけ医の継続も出来る事を説明しているが、連携施設である病院の主治医が定期的に往診に来ており健康管理に努めている。また、緊急時、夜間時対応の連絡体制も整えられている。	在宅時のかかりつけ医を継続できることを説明していますが、内科については全利用者が24時間連絡が取れる協力医の往診を受けています。他の専門医への受診については家族や職員が付き添い受診結果はその都度家族と情報交換しています。また全利用者が定期的に歯科検診を受け、治療などが必要な利用者は訪問歯科を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており常に、ご利用者様の健康状態の把握に努めており情報共有が出来ている。連携施設である病院の主治医が定期的に往診に来ており健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携施設である病院の主治医、MSWと情報交換や相談等をし常に連携を取り合いながら入退院時の支援体制が確立されている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向、想いも踏まえた上で当事業所において出来る限りの支援をさせて頂く体制である。連携施設である病院の主治医と情報交換をしている。	入居時に重度化した場合の対応について説明し意向を確認しています。これまでに支援の経験はありませんが医師の判断で入院となった利用者は家族の強い希望でホームに戻り元気になった方もいます。医療的ケアを必要とせず痛みなどがない場合は利用者や家族の思いを大切に支援していく予定です。またホームでは終末期に関する研修や看護師から話を聞くなどの機会を持っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し周知徹底しており、病院関係者、看護師による救急救命講習会を全職員は受講している。連携施設である病院が緊急時の受入先となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練は、消防署の立ち合いで実施している。運営推進会議では、地域の方に向けて災害対策研修も連携施設である病院職員が講師となり行っている。	消防署の立ち合いの下、年に2回昼夜を想定した避難訓練を行い、初期消火や避難誘導、水消火器の使用方法などを実施しています。運営推進会議の中で訓練の案内を行い、民生委員や家族などの参加を得ています。また地域で行われる防災訓練へ参加したり、救急救命講習会の実施や排せつ用品などの備品を準備しています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様には人生の先輩である事を忘れず尊厳ある対応や言葉掛けの配慮をしている。全職員は研修会に参加し理解を深めるように努めている。	法人研修への参加やホーム内研修には全職員が参加し接遇やマナーについて周知しています。利用者への声掛けは日常的に敬語で行い、馴れ合いにならないよう留意しています。また排泄介助時の声かけは周りに配慮したり、居室への入室時には了解を得るなど基本的なことを守りながら、利用者を尊重した対応に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、ご利用者様が気軽に想いやご希望が話せる環境作りをしている。表情や動作等、言葉にならない想いを受け止め職員間で常に共有し自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れの中で、ご利用様一人ひとりのペースを大切にゆったりと居心地良く暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様の希望に応じ理髪店の方が、来て下さったり、希望があれば美容院に白髪染めに出掛けている。季節に応じた装いやお洒落が出来る様に、ご本人、ご家族のご要望もお伺いしながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養バランス、旬の食材を考慮し献立から料理作りまで、ご利用者様のご希望もお聞きながら準備している。下膳、食器洗いと、ご利用者様と一緒に楽しみながら、教えて頂きながら行っている。	利用者の好みや旬の物、暦の上の行事等に合わせ献立を決め、食材は発注したり、足りない物は利用者と一緒に買い物に行っています。利用者は皮むきや味付け等できる事や得意な事に携わり、職員も共に食卓に着き談笑しながら食事をとっています。また弁当を作って出かけたり、回転寿司等の外食や出前の他、おはぎやたこ焼き、干し柿作り等も楽しんでいます。献立は法人の栄養士にチェックしてもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量等、毎日記載しており、主治医と連携し定期的に栄養状態の確認もし、1人ひとりに合わせ提供出来るよう支援している。		

グループホーム ふかくさ(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施を徹底し、定期的に訪問歯科を利用しながら口腔ケアのアドバイスも頂いている。夜間の義歯洗浄は、ご希望に応じ、事業所側で管理もさせて頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様一人ひとりの排泄パターンを把握し出来る限りトイレでの排泄が行えるように、1人ひとりに合わせたお声掛けや誘導をし自立に向けた支援をおこなっている。	個々の排泄パターンやサインを見ながら排せつの支援をしています。安心の為夜間のみポータブルトイレを置いたり、ゆっくり排泄する方等個々に合わせて支援し、退院後には早期に元の状態に戻るよう支援しています。また排泄用品は業者のアドバイスやサンプルなどを使用し本人に合ったものを選んでいきます。排せつ状況が改善し、自信を取り戻した利用者もあり、失敗なく快適に過ごせるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排泄パターンの把握をしている。食事にも食物繊維の多い食材を使い乳製品もおやつに取り入れている。また、日々の散歩や身体を動かすレクリエーションを取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者様の状況や、ご希望をお聞きしながら入浴をして頂いている。ご希望があれば、夕食後の入浴も柔軟に対応し入浴を楽しまれている。	入浴は週に2~4回日中の時間帯に希望に合わせて支援していますが、夜間の9時頃までは入ってもらうことも可能です。一人ずつ湯を入れ替え、季節の柚子湯や好みの入浴剤やシャンプーなどを使用し職員とマンツーマンでゆっくり入ってもらっています。入浴を断る利用者には時間をずらしたり職員の交代、時には家族に銭湯に連れて行ってもらうなど家族の協力も得ながら入浴できるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの身体状況に合わせ、居室や共有スペースでの休息の支援を行っている。夜間安眠出来る様に日中はレクリエーション、体操等、活動的な時間を作り生活リズムを整えて安眠に繋がる支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は個人ファイルに管理し確認出来る様になっている。症状の変化は記録に残しながら看護師に相談し主治医と連携している。また、薬剤師に薬の相談やアドバイスも頂き服薬の確認の徹底に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の性格や生活歴を把握した上で、利用者様1人ひとりの役割や得意分野が発揮できるよう支援している。		



グループホーム ふかくさ(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご利用者様のご希望を常に伺いながら、買い物、散歩等に出掛けており、季節に応じて外出先を考えながら出掛けている。また、ご家族様の協力のもと個別外出支援も行っている。	気候の良い時は利用者の希望を聞きながら日々散歩や買い物に出かけています。また家族を誘って桜の花見に出かけたり、藤や紅葉狩りの他、動物園や祭りなどに出かけています。また希望を聞きながらホテルでの食事や喫茶店、百貨店などの個別の外出支援にも取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当事業所にて預かり金の金銭管理をし、ご利用者様のご希望に応じて個別に買い物やお出かけを楽しんで頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と何時でも電話連絡出来る様、協力頂いている。お手紙や年賀状のやり取りが続けられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は清潔を第一に考え、明るさ温度の調整をし利用者様がリラックス出来るよう、季節の花を飾ったり季節に応じた壁飾りを一緒に制作したりと季節感を出した居心地良い雰囲気作りを心がけている。	利用者が多くの時間を過ごすリビングは寛げるようソファを置き、随所に庭の花を活けたり、利用者で作った季節の作品等を飾り季節感のある温かい雰囲気作りを行っています。テレビの見やすい場所等利用者の希望を聞いたり、相性を考えながら座る場所を決めています。また日々の掃除や乾燥する季節には加湿等に留意し清潔で過ごしやすい空間作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様が過ごしたい場所で過ごせるように限られた共有空間で席の配置を考え、併設施設の屋上にベンチを置き、天気の良い日は日光浴、夕方には夕涼み等、散歩がてらお出かけしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様、ご家族様と相談しながら使い慣れた物を持参して頂いている。家族様の写真等も飾ったり、毎日、お仏壇に手を合わせられたりと、ご利用者様が居心地良く過ごせるよう配慮している。	洗面台が設置されている居室にはテレビや自宅で使用していた筆筒やテーブル等を持参してもらい過ごしやすいよう配置しています。家族の写真や自分で作った作品を飾ったり、趣味の琴などの楽器の他、編み物や裁縫道具を持参し小物作りをしている方もいます。また身体状況の変化に合わせて安全に移動できるよう家具の配置を変更することもあり、安心して過ごせるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の「できること」「わかること」得意分野に合わせて出来る限り自立した安全な生活が送れるよう共有スペース、各居室の家具の配置等の工夫もしながら環境整備をしている。		